

奈良・人と自然の会

＜わたしたちは大和の自然を愛します＞

「三内丸山遺跡」のクリの木 から



阿 部 和 生

昨年の秋「三内丸山遺跡」を訪ねました。JR青森駅からすぐ南西約3kmの市街地端にあります。平成6年、直径2mの巨大柱穴と太い「クリ」の木柱がみつかって遺跡発掘のニュースが全国に流れました。径1mを超えるクリの柱は、東大寺大仏殿の柱と同じくらいの太さです。その木柱はどのくらいの高さがあったのだろう？と思ったものです。その後膨大な発掘資料が出土し解析され、縄文遺跡から多くの発信がなされました。

縄文時代というのは、およそ一万三千年前～二千数百年前までの、一万年にわたる期間を指し、前期、中期、後期に分けられています。この遺跡は、中期（およそ五千年ほど前）から千五百年ほど続いた住居遺跡と解明されました。昔私達が習った「縄文人」のイメージは、毛皮をまとい、山野に獲物を追い、その日暮をしている貧しい・未発達の人々像でした。しかし実際は、狩猟、採集の日々とともに、人工林的クリ林を管理し、貯蔵施設を持ちエゴマ、ヒエなど栽培植物があり、定住生活を営む。集落を営み集団生活を構成していたことなどが明らかにされ、これまでの常識が覆されてしまいました。クリ林を管理していたことは、出土したクリの実を摩りつぶし、DNA鑑定することから立証されたそうです。木柱に使われた六本の巨木クリは、建造物を作るために集められたもので栽培種とは別であることも判っています。径1m余、長さ20mほどの木柱の建物は、現代の6階建てのビルに匹敵します。縄文の昔にいかようにして運ばれ、加工され、建築されたのか興味は尽きません。クリの木は、立ち木のときは虫が付きやすかったり、時として腐ったりしますが、製材された後は、水や虫に強く、最も腐りにくい材であるといわれています。五千年もの昔に、そうしたことが体験的に知られ巨大建造物に使用されていた事に驚き感心するのです。

クリの木は、成長が早く日本の国土に合う樹木の一つでしょう。とくに東北の里山は、「クリ帯」と呼ばれるほど過去にはクリの高齢・大木が多かったといわれています。ところが鉄道の枕木として使用されその延伸とともに膨大な量の伐採がなされました。あるいは戦後中国から入った「クリタマバチ」が全国的に蔓延したことなどにより減少してしまった歴史があります。

枕木はコンクリートに替わりました。そして日本のクリの木の中から今では「クリタマバチ」に強いこどものクリが少しずつ増えてきているそうです（自然はすごい!）。「チュウゴクオナガバチ」と言う天敵も導入されました。少しずつ復活しているようです。

木目もきれいで育ちも早い、裂開する果実も美味しく、材も有用、ヤマグリも栽培種のクリも野山に増えることを願っています。

参考文献 「遙かなる縄文の声」 岡田康博著 NHKブックス
「樹と森のものがたり」 西口親雄 つげ書房新社



1月例会
岩井川ダム法面の植生回復の試み
(現場見学と講演会)

担当 川井 秀夫
林 令子

日 時 1月28日(日)

天 候 晴れ やや寒

参加者 16名 守口・板橋・川岸・樋口・福谷・勝田(均・緑)・境
弓場・古川・明石・岩田・小嶺・豊島・林・川井

全労済環境活動助成の支援を受けて、恒例となった新春講演会を実施。奈良教育大学教授 松井 淳 氏を迎え、春日連山の北部を流れる岩井川ダム開発に伴う法面の植生再生をテーマに、現場見学に続き大学の一室にて講演会を催す。

近鉄 奈良駅からタクシーで20分。山間の深い溪谷に岩井川が流れ、セメントの大屏風が科学の粋を誇らしげに、大自然を遮断する。川沿いに幅員された県道。殺がれた広大な山肌が今日の舞台である。

山肌は一面の芒原。行政が緊急処置として播種したと言う。一定の場所に害獣除けの柵が幾つもあって、ミステリー サークルと名付けられた先生方の研究スポットが並ぶ。イヌシデ・クリ・モッコク・ダンコウバイ・ムラサキシキブ・ツクバネガシ・タニウツギ・ヤマザクラ・ウグイスカズラ 等の幼木・若木が植栽され、成育状態の試行錯誤が続いている。

山林の再生には地域固有の自然回復が重要となり、春日山の生態系との調和が必要であり、外来種の排除、また野生動物との軋轢も大きな課題とも言われている。

午後の講演会では森林再生・法面緑化・河辺植生の研究課程の説明があり、新しい学理論を勉強させて頂いた。侵略的外来種(アメリカオニアザミ・シオザキソウ・ブラジルチドメグサ・シナダレスズメグサ・オオフサモ等々)の排除。生物群集・生態系機能の歴史性についても熱っぽい講話を拝聴し、若き先生にエールを送り散会。

ダム開発の功罪はさておき、将来先生方の研究成果が活かされるのか、この広大な法面が行政・業者の理解のなかでシナリオ通り進展されるのか、予算・労力はもとより、時間経過による人事的変化も一貫性を欠く事にはならないのか。疑心を抱えながら帰路につく。

後日、近鉄橿原線の車中から春日の山並みを遠望すると、くっきりと削られた山肌が目に入り、思いを新たに人間の所業に憤りに似た新たな感慨を感じたものである。現場から大学まで徒歩で山を下られた参加者の皆さん、ご苦労さんでした。

冬 枯れの日の方、西に沈む夕日を背に葉をすっかり落とした柿の木に取り残された実、その実のことを「木守り」といいます、懐かしい日本の風景ですね。餌の少ないこの時期に鳥たちのために残して置くやさしい日本人の心使いがありました。そして青森県津軽地方にはかつて「雁風呂を焚く」という風習がありました。ガンの群れは、秋シベリア大陸から日本海を渡って飛来(雁行)し、その時嘴にそれぞれの木の枝をくわえて飛んで来るのだそうです。長い渡りの途中で、木の枝を海に浮かべてその上に止まって翼を休めるためです。津軽に舞い降りるとその木の枝を置いて日本列島を南下します。そして春シベリアに帰る(北帰行)時、浜辺に置いておいた木の枝を再びくわえて日本海を隊列(雁行)組んで又渡って行くのです。でも帰れない鳥が相当数いて、木の枝がそのまま沢山残されていることがあります。その木の枝を集めて燃やし風呂をわかしてガンの供養をしたのだそうです。いかにも最果ての津軽らしい素朴でやさしいお話ですが「雁風呂」というその言葉さえ、彼の地でも知る人は少なくなったようです。昨年11月、日本最大の雁の越冬地「伊豆沼」に行きました、朝夕の時から飛び立ち、帰って来る時の「雁行」を大感動で見るのが出来ました。



いつまでもこの光景に出会える環境を残したいと祈念しながら。

自然俳句欄

春一番阿騎の大野の目覚めかな

川井 秀夫

春寒の風が吹く。草木の芽吹きが大地の鼓動を伝える。春のクライマックスは間近である。阿騎野の山野は素晴らしい。

木華咲く季節待たるる四方の里

樋口 善雄

冬日射す柳生歩道に旅人まばら

「当季雑詠」



- ★2月3日レンジャクが見られました。矢田民俗博物館50羽・依水園10羽 (小田さんの友人より)
- ★2月7日朝畑横の公園でウグイスが鳴く練習を始めました。13日夕方は庭で遠慮がちに鳴く練習をしました。14日ははっきりとかわいく「ホーホケキョ！」と初音を聞かせてくれました。(齋藤)
- ★【斑鳩より】竜田川で1/27 ウグイス初鳴き。去年は2/27で1か月早いです。神南でヒレンジャク1羽が赤い実を食べていました。1/29 ウソ♀、2/15♂、2/19♂5羽。2/20 イカル20羽 (勝田)



【奈良忍辱山森林整備作業】

〈場 所〉 奈良忍辱山国有林 (淀川、木津川、白砂川の源流域)
(忍辱山円成寺駐車場) より徒歩10分 柳生街道沿い。初回作業地隣
●3月24日は生協対応のため変更になります。

〈集合場所〉 国道369号線
忍辱山円成寺駐車場 (バス停 円成寺口と忍辱山円成寺の間)

〈日 時〉 3月13日 (火) 10時20分 第67回 〈終了予定〉 3時頃
3月24日 (土) 9時20分 第68回 奈良生協対応

【天 候】 午前6時 奈良県北西部に警報が出されている時は中止いたします

〈交 通〉 奈良交通バス

平日 [梅の郷月ヶ瀬温泉行き]

土・日・祝 [柳生行き]

JR奈良駅⑥番乗り場 近鉄奈良駅④番乗り場 忍辱山円成寺

日祝 8:26 8:29 9:02

平日 9:30 9:33 10:06

臨時バス お問い合わせ 奈良交通 ☎0742 (20) 3100

〈持ち物〉 ヘルメット (防災用)、手袋、スパッツ、鋸、防護眼鏡、弁当、飲み物
ヘルメット、防護眼鏡、鋸等の用具は当会にて多少は用意しております

《未経験者には基本より指導いたしますのでお気軽に。森林を楽しみましょう。》

作業をしなくても結構です。森林浴を楽しんで下さい。待ってます。

〈連絡先〉 弓場厚次

阿部和生

寺田正博

【作業報告】

1月23日 (火) 10時20分 曇

〈参加者〉 中畑、明石、竹本 (V)、寺田。4名

気温が低い、風は殆どない。が人口林と違う戸惑いもある。しかし、作業跡地は枯損木を重点的に整理する。笹の残りも整理終了。

2時30分 無事終了。

2月11日 (日) 9時20分 曇 今にもくずれそう。

〈参加者〉 樋口、竹本 (V)、中畑、守口京子、弓場、寺田。6名

自然林にも慣れてきたので作業ははかどる。

【植物語源豆知識】 つつじ 躑躅「てきちよく」

『日本国語大辞典』には、①ツツキサキギ (続咲木) の意味、②タルルチチ (垂乳) の略転、つばみの形が女性の乳頭に似るため、③ツヅリシゲル (綴茂) の意味。

④ねばりがあって手にツキツキ (付々) するからの4説をあげる。

漢字「躑躅」は、「行つてはとまり、じっと立ちどまる」意味がある。満山・庭園に咲き誇ったツツジを見てその荘観美に打たれ、見る人の足を引きとどめたところにこの漢字が選ばれたのでしょうか。

〔語源辞典〕 吉田金彦

3月度例会「早春の賀名生梅林を散策」

- 「日程」 19年3月8日(木) *「交通」は第61号(2月号)に記載
「集合」 JR五条駅前 10時25分 10時27分発バスに乘車します
「コース」 五条駅前より奈良交通バスにて約30分の西吉野北菅木の賀名生梅林を訪問し、ゆっくりぼちぼちと登ります。なんと2万本の梅三昧(花、香り、味)を楽しみ、足元の春待ち草花も愛でながらの華やかな里山の観察です。
担当 : 甲斐野幸-
-

<4月の予定>

★ 詳細は機関紙第63号<4月号>でお知らせします

オプション企画 葛城山春の妖精カタクリを愛でる路を歩く

日時 : 4月16日(月)

集合 : 近鉄御所駅 10時 10時17分の葛城登山口行きのバスに乘車します。

コース : 葛城山登山口駅——(ロープウェイ)——葛城山上駅——(自然観察路 2キロ)——自然つつじ園——平石峠——近鉄いわき駅 約8キロ
ロープウェイで山上に上り、ゆっくりカタクリの花を楽しんでいただくコースです。ショウジョウバカマやイカリソウにも出会えます。昼食はカタクリの花に囲まれた“秘密の花園”で摂ります。又下山路は緩やかな下りですが心配される方はロープウェイで下山する事もできます。多くの方のご参加をお待ちしています。

交通 : 近鉄のダイヤ改正があるかもしれませんので4月の会報でお知らせします。

持ち物 : 弁当、飲み物、観察用具、雨具等

担当 : 岩田利秋

林 令子

4月度例会「高取城跡を訪ねる」

【日程】 4月25日(水)

【担当】 豊島 すみ子

小嶺 敏勝

協力活動 「いこま棚田クラブ」活動ご案内

【3月の取り組み】

◇作業日…3月4日(日)、12日(月)、18日(日)、26日(月)

椎茸づくり…椎茸の植菌作業あと少し。ご参加ください

◇集合場所…近鉄生駒駅下車(鶴橋駅より快速15分)南口側ケーブル鳥居口駅西隣
セブンイレブン前 9:00集合(現地まで車で移動約15分)

☆ 中古の耕運機が入手できました。すぐに使いこなせます、チャレンジ!!

☆ ビオトープ作り、始めました。いろんな生物の繁殖を願って。

◇持ち物…弁当、飲み物、観察用品、軍手、長靴

◇連絡先…事務局 大寺道代



【アースディ】

- * 4月22日(日)「アースディ2007」(大和川・第1浄化センター)
 - * 4月29日(日)「アースディ2007イン平城京」
- #自然工作に興味のある方の参加をお待ちしております。

平成19年2月幹事会議事録

平成19年2月6日(火) 17:30~20:30 奈良県女性センターにて

出席 11名(欠席3名) 司会:勝田 書記:大石

『報告事項』

- (1) 会員動向:95名 会計報告:現金残 107,683 円
- (2) 1月度例会と新春講演会 ダムの法面の植生回復という題で一般参加者にもう一つPR不足であったか、イメージ可能な工夫が必要か
- (3) 近畿自然歩道まほろばの路「高見川清流と文学の路」 文学的素質の豊かなる路で、心のカメラ(俳句)で自然を切り取る事をして好評であった。
- (4) 奈良・忍辱山森林整備作業 朽木と笹の整理が主体であった。
- (5) 「いこま棚田クラブ」1月14日(日)恒例の大トンドは参加者80名強と大盛会。
- (6) その他・アンケート回収:具体的な意見を企画会議に反映する。・4月29日(土)実施の「アースディイン平城京」に参加の方向で企画(担当:小嶺)

『確認事項』

- (1) 例会 2月23日バードウォッチング 3月8日賀名生梅林
- (2) 近畿自然歩道 2月15日「阿彌野/万葉の道」 なお当初企画の「葛城山カタクリを愛でる会」は4月16日に順延。
- (3) 森林整備作業 2月11日、2月21日、3月13日、3月24日(奈良生協が親子体験教室を企画、20家族30名を予定。生協広報誌「あおがき」には送信済み、また当会会員向けチラシを100枚3月会報に入れる。なお環境税対応の県補助金は申請中(担当:阿部)
- (4) 「アースディ2007」 4月22日(日)<第一浄化センター>

『企画会議Ⅱ』

1月の議事録記載の内容に沿ってその詰めを討論。・奈良ソムリエテキスト(奈良検定)から選ぶ・古墳シリーズ・年1~2回の1泊2日旅行などの意見がでたが結論的に、近畿自然歩道は一旦終了し、それに替わって当会推奨コースを企画。テーマとキヤッチコピーなど味付けは次回詰めを行う。なお今後サブ担当者を置くことも決定。

編集担当:勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫